耕起

ウシの家畜化は、最も古い家畜であるイヌ、そしてヒツジとヤギに次いで古く、今から 8,000 年程前に西部アジアで行われたと考えられています。大型の動物を家畜化するには困難が伴ったと考えられ、その動機については、宗教儀礼など古代人の精神世界が影響を与えたとする説がある程度受け入れられています。しかし、最も古いウシの家畜化の証拠とされ、多くのウシの角や頭部が神殿に納められていたアナトリア高原のチャタル・フユク遺跡においても、ウシの家畜化を機に野生動物の骨が出土する割合が減少しており、その主要な目的が食糧であったことに疑いはありません。

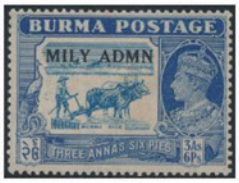
ウシを用いた犂の登場は、6,000 年程前のメソポタミア文明に遡ることができます。ウシが家畜化される前に既に営まれていた原始的な定住的農耕が定着し、人口が増加して食糧増産の必要に迫られたのでしょう。やがて、馴化が進んだ家畜牛が引く犂が考案されるに至ります。

ウシは首付きが低いことから、首を下げると「き甲」と呼ばれる肩の最も高い位置で横棒をひかせることができます。長く伸びた犂の引棒の先端に横棒が取り付けられ、その両端は２頭のウシの各々の肩に結び付けられました。農業における牛耕の導入は、牛糞を肥料として利用することと相まって、耕作面積と農作物の収穫量を飛躍的に増大させることになります。

メソポタミア、エジプト、インダス、黄河流域などに出現した古代文明はいずれも小麦、大麦を主とする穀物と牛耕を基盤として成立しており、人類が「ウシの役利用」と「作物を個体ではなく全体として管理する種子農耕」を知ったことは、人類文化史上の重大な出来事でした。ちなみに、ウマの家畜化は、5,000 年程前です。大地を耕して、私たちの食糧を増産し、文明と文化を育んだのはウマではなくウシだったのです。

インド
1959 年 15 ﾊﾟｲｻ

切手を見てみると、インドでは二頭引きの牛犂で畑を耕していることがわかります。夏が作期であるモロコシやトウジンビエなど雑穀が主作物であり、土壌を深く耕し、雑草を根っこから取り除くためにやや頑丈になっています。



ビルマ
1945 年 3.6 ﾊﾞｰﾐｽﾞｱﾅ(加刷)

水田稲作地帯における牛犂の利用も東南アジアにおいては２頭引きが普通です。1945 年にビルマ（現ミャンマー）で発行された 3.6 バーミーズアナ切手では、馬鍬をひいて代掻きをしている様子が描かれています。田んぼの土を細かく砕き、舞い上がった土が沈殿することで水漏れを防ぐ効果があるほか、水田の表面を平らにすることから、苗が均等に育つといった効果があります。代掻きの前に行う牛犂による耕起と併せて、除草の効果も期待されます。

日本占領地インドネシア・ビルマ
1943 年 3 1/2 ｾﾝ　1943 年 30 ｾﾝﾄ

大日本帝国郵便、ビルマ郵便切手と日本語で記された切手に２頭のウシが犂を引いている様子が描かれています。昭和 30 年代まで行われていた日本の牛耕は１頭引きなので、そのころを知る人には、違和感があるのではないでしょうか。この切手を説明するには、戦争について触れなければなりません。日本は、昭和 16 年(1941)12 月 8 日の真珠湾攻撃により開戦すると、東南アジアの国々に侵攻して占領しました。この時期に日本軍によって発行された切手は、南方占領地切手と呼ばれており、その地域の文化も図案として採用されています。２頭引きの牛犂は、異国の文化を実感する情景だったのではないでしょうか。

アジアで一頭引きの牛耕が描かれているのは、タイ、ラオス、台

中華民国(台湾)
1958 年　0.20ﾄﾞﾙ

ベルギー
1928 年　5+5 ﾌﾗﾝ

ルーマニア
1946 年　400+1600 ﾚｲ

湾の切手です。中でも台湾で 1958 年に発行された 0.20 ドル切手は、スイギュウで行われていることを除けば、かつて日本で行われていた１頭引きの牛耕そのものです。大洋州のニューカレドニアとパプアニューギニアから発行された小型切手シートは香港で開催された切手展に合わせて図案化されたものです。

欧州の図案は、その多くが２頭引きですが、ベルギーの５+５フラン切手に描かれた牛犂は、４頭のウシが引いています。牛犂が考案された西アジアの乾燥地帯では、耕起の目的は播種と保水にありましたが、ヨーロッパは湿潤で土壌が重く、雑草が生えやすいことから、深耕して除草する必要がありました。そのため、牛犂は、車輪が取り付けられた重犂に改良され、中世にはウシを数頭頸木につないだ連畜犂となり、広大な麦畑の耕作が行われました。こうした変化の延長線上に現在のトラクターがあり、1946 年に発行されたルーマニアの 400+1600 レイ切手は、そのことを象徴するデザインとなっています。アフリカでは、植民地時代に導入されたヨーロッパと同じタイプの牛犂が描かれています。

肉や乳などの畜産物を与えてくれるだけでなく、穀物の増産に貢献し、私たちの文化を花開かせたウシは、まさに家畜の代表といえるでしょう。

イタリア植民地リビア
1940 年　10 ｾﾝﾃｨｰﾓ

アジア地域

インド
1955 年　4 ｱﾅ

インド
1996 年　800 ﾙﾋﾟｰ

ネパール
1965 年　2 ﾊﾟｲｻ

ネパール
1976 年　25 ﾊﾟｲｻ

バングラデシュ
1998 年　10 ﾀｶ

ビルマ
1946 年 3.6 ﾊﾞｰﾐｽﾞｱﾅ

ビルマ
1949 年 2.6 ﾊﾞｰﾐｽﾞｱﾅ

ビルマ
1949 年 8 ﾊﾞｰﾐｽﾞｱﾅ

ビルマ
1952 年 8 ﾊﾞｰﾐｽﾞｱﾅ

ビルマ　1954 年　10 ﾋﾟｬ（加刷）、50 ﾋﾟｬ（加刷）×2

マレーシア・ケダ州　1921 年　10 ｾﾝﾄ

中華民国(台湾) 1958 年 0.40・1.40・3.00 ドル

中華民国(台湾)
2001 年 7 ドル

中国
1952 年 800 圓

中国
1952 年 1000 圓

南ベトナム
1959 年 2ドン

日本占領下
オランダ領東インド・スマトラ島
1944 年 20 セント

日本占領下海軍区
オランダ領東インド
1942 年 3 セント

日本占領地マライ
1944 年 8・15 セント

【日本占領地ビルマ】

1942 年 1 アンナ、5 セント(加刷)　　1943 年 1・2・3・5(C)・5(c)・10・15・20 セント

大洋州地域

ニューカレドニア 1997 年 75 フラン×2 小型シート〔×0.65〕

パプアニューギニア 1997 年 1.50 キナ 小型シート〔×0.65〕

中南米地域

イギリス領ギアナ
1934 年 1 ｾﾝﾄ

イギリス領ギアナ
1934 年 1 ｾﾝﾄ

エルサルバトル
1938 年 5 ｾﾝﾀｰﾎﾞ

パラグアイ
1939 年 5ﾍﾟｿ

ペルー
1935 年 2.00 ｿﾙ

ペルー
1935 年 2.60 ｿﾙ

ホンジュラス
1992 年 1.00 ﾚﾝﾋﾟﾗ

欧州地域

アイルランド
1994 年 28ﾎﾟﾝﾄﾞ

アルメニア
1921 年 25000 ﾙｰﾌﾞﾙ

アルメニア
1922 年 10000 ﾙｰﾌﾞﾙ

イタリア
1950 年 55 ﾘﾗ

ウクライナ
1994 年 無額面

スウェーデン
1973 年 75ﾍﾟﾆｰ

ソ連
1969 年 6 ｺﾍﾟｲｶ

フランス
1940 年 5.50 ﾌﾗﾝ+50 ｾﾝﾃｨｰﾑ

ベラルーシ
1995 年 300 ﾙｰﾌﾞﾙ

ブルガリア
1941 年 15 ｽﾄﾃｨﾝｷ

ブルガリア
1943 年 15 ｽﾄﾃｨﾝｷ

ポーランド
1919 年 2.50 ｸﾛｰﾈ

ポーランド
1920 年 3 ﾏﾙｶ

リヒテンシュタイン
1951 年 60 ｾﾝﾃｨｰﾑ

中東地域

アフガニスタン
1963 年 3, 4ﾌﾟﾙ

イスラエル
1977 年 2.10 ﾘﾗ

オマーン
1989 年 100 ﾊﾞｲｻ

トルコ
1963 年 30 ｸﾙｼｭ

アフリカ地域

イフニ
1955 年 10+5 ｾﾝﾃｨﾓ

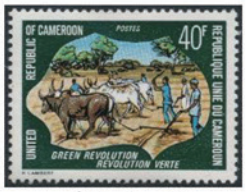
エジプト
1926 年 10 ﾐﾘｴﾑ

エチオピア
1988 年 10 ｾﾝﾁｭｰﾑ

エチオピア
1990 年 5 ｾﾝﾁｭｰﾑ

エリトリア
1936 年 25 ｾﾝﾃｨｰﾓ、1.50 ﾘﾗ

カメルーン
1956 年 5CFA ﾌﾗﾝ



カメルーン
1975 年 40CFA ﾌﾗﾝ

コートジボアール 1993 年 150CFA ﾌﾗﾝ×3

セネガル
1965 年 25CFA ﾌﾗﾝ

タンザニア
1982 年 50 ｾﾝﾃｨﾓ

トーゴ
1988 年 90CFA ﾌﾗﾝ

マダガスカル
1933 年 1 ｾﾝﾃｨｰﾑ

マダガスカル
1946 年 10+5 ﾌﾗﾝ

マダガスカル 1930 年 5・20・65・90 ｾﾝﾃｨｰﾑ

マリ 1961 年 3CFA ﾌﾗﾝ

マリ
1961 年 25CFA ﾌﾗﾝ

マリ
1979 年 120CFA ﾌﾗﾝ

モーリタニア
1988 年 35 ｺｳﾑ

モザンビーク
1975 年 20 ｾﾝﾀｰﾎﾞ

南西アフリカ
1938 年 1/2+1/2 ﾍﾟﾆｰ×2